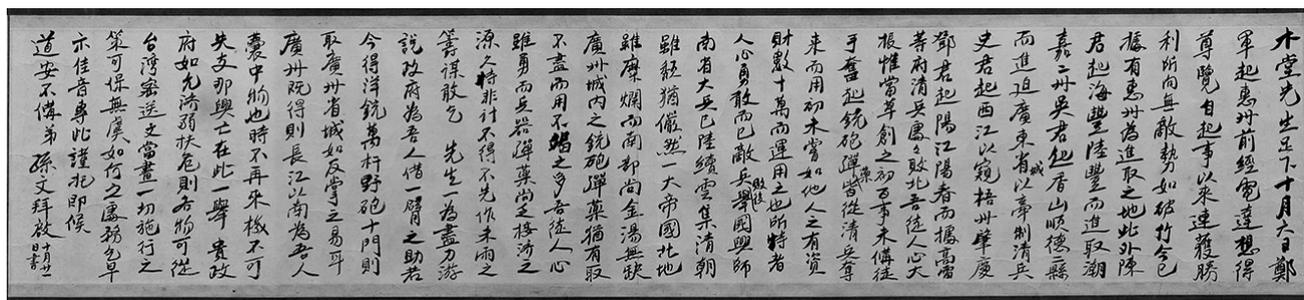




## 孫文筆「犬養毅宛書簡」

孫文記念館館長 魚住 和晃



孫文の書というとは即座に浮かぶのが、「天下為公」と「博愛」の二作である。これらの作は全国各地でしばしば見られるもので、孫文は書の揮毫を求められると、決まったようにこの二語を書いていた。ちなみに、孫文記念館では「海不揚波」「革命」など、その他の語による書作も蔵するが、これらは依頼者の要望に応じて、あえて書したものなのだろう。

当時の中国では書家に限らず、文化人においては当然のように書を求められる場があったので、筆のほか自身の作であることを示すための雅印をつねに身に備えていた。孫文においても、書作には必ず押印がある。

ところで、書道には手紙や草稿などの、日常書を尊ぶ伝統がある。伝承される王羲之の書跡は殆どが手紙であり、顔真卿の「争座位帖」は草稿である。日本でいえば空海の「風信帖」や最澄の「久隔帖」

は手紙であり、小野道風の『智証大師諡号勅書』は草稿である。

これら書跡は文言こそを目的とし、書の善し悪しにとらわれずになされている。だが、そこにこそたくまぬ本領が発揮されており、書き手の真価があるとの見方である。唐の柳公権の「心正しければ則ち筆正し」とは、これをいうものであろう。

このたび、岡山市庭瀬にある犬養木堂記念館の提供を得て、孫文が犬養毅に革命の助力を求めた長文の手紙の、原寸原色による複製が当館において作成され、公開される運びとなった。ここに展開される書跡は先の二語の作とは異なって、軽快であり、なおかつ一点一画を鮮明にする、科学者としての孫文の知性が示されている。これは中国でもなかなか目にすることができない資料で、孫文ファンならずとも必見の名品になるに違いない。

目	次
孫文筆「犬養毅宛書簡」……………(1)	上海孫中山故居記念館で講演……………(3)
孫文「大アジア主義」講演100周年記念事業について…(2)	移情閣友の会通信……………(4)
孫文研究会通信……………(2)~(3)	編集後記……………(4)
記念館ニュース……………(3)	

## 孫文「大アジア主義」講演 100周年記念事業について

1924年11月28日、孫文が神戸の地において、大勢の市民に向かって「大アジア主義」に関する講演を行って100年の節目を記念した「孫文「大アジア主義」講演100周年記念事業」として、2024年11月30日には公益財団法人孫中山記念会の主催による特別講演会が、また翌12月1日には、公益財団法人孫中山記念会と孫文研究会の共催による国際学術シンポジウムが、いずれも神戸市内で開催された。より複雑化する国際関係の中、各国の研究者が神戸に集まり、100年前に孫文が神戸で講演した内容とその影響をさらに掘り下げようとする意欲的なイベントであった。二日間のイベントの参加者数は300人にも及び、大盛況であった。

東京科学大学の中島岳志教授は30日の特別講演会にて、「孫文の大アジア主義演説と近代日本のアジア主義」と題する基調講演を行った。孫文と日本のアジア主義がどのような関係にあるのか、そして100年前の大アジア主義講演と深く関わっていた頭山満や内田良平、犬養毅など様々な人物を例に挙げて解説した。その後、同志社大学の村田雄二郎教授と東京大学の川島真教授を交えて興味深い鼎談も行われた。



中島岳志先生ご講演

12月1日の国際学術シンポジウムでは第三回林同春記念・孫文記念館学術賞の授賞式が行われた。受賞者となったアジア主義研究の碩学、嵯峨隆氏（静岡県立大学名誉教授）は「孫文の対日観とアジア主義」と題する基調講演を行った。嵯峨氏は清朝末期から神戸での大アジア主義講演に至るまでの孫文の思想の展開過程を説明した上で、講演の内容に関していくつかの問題を提起した。「孫文は日本の侵略主義政策を批判しつつ、日本・中国・ソ連の提携を呼びかけた。日本との決別を宣言したのではなく、アジアへの回帰を期待したものであった」とした。

続く国際学術シンポジウムでは、報告者は7人に及び、孫文の講演の背景、経緯、思想、内容、意図、そして語らなかつたことなどについて多角的な視点から考察し、孫文の大アジア主義講演の今日的な意義を再評価した。

マカオ大学の孫江教授は、アジア主義は政治史、思想史の研究課題であるだけでなく、感情史の観点からの検討も必要であると述べた。「感情史の視点からアジア主義を再検討すると、アジア主義言説内部の断絶に時代精神の断絶が映し出されていることがわかる」と主張した。

延世大学の白永瑞名誉教授は、孫文のアジア主義を中国思想史の中で抽出可能な東アジア論の系譜に位置づけ、その意義を再考した。「孫文の中国の人民主権の再構成がアジア主義とどのように結びつくかに関する洞察が、今なお必要」と述べた。

メルボルン大学のCraig A. Smith上級講師は孫文の講演は同時期の中国の知識人の言説に多大な影響を与えた

だけでなく、他国の植民地知識人にも深遠なる影響を与えたことを主張した。孫文の演説に対するアジア各地の反応を、特に台湾、韓国、インドネシア等の植民地を中心に考察し、孫文の講演の内容が大きな反発を呼んだこともまた無視できないと述べた。

千葉商科大学の趙軍名誉教授は孫文と遠藤隆吉を比較することによって、孫文の「王道」理念と遠藤の「人文東洋主義」の主張と間に、多くの共通した要素が存在していることを指摘した。二人の「理論展開の異同は、文明論からのみではなく、政治思想史の枠組みを横軸から吟味する価値がある」と主張した。

清華大学の宋念申教授は「アジア」あるいは「東アジア」とは何かという根本的な問いを投げかけた。そして、アジアは自己完結した存在ではないと主張した。アジアの近代の経験に立ち返り、グローバルな視点に立った長い議論の中で、現代世界との関係を整理すべきだと話した。

台湾中央研究院の潘光哲研究員は現代中国を理解するためには、政治的概念としてのアジアを理解しなければならないと話した。西洋帝国主義の侵略に対して、アジアは単なる地理的概念ではなく、政治的概念でもあるといえる。そして、政治的概念としてのアジアが近代中国の思想と対外認識の変化にも反映されていると主張した。

国際紛争が頻発化する昨今、世界の調和的な発展を実現するためには、先人の経験と知恵を活用することが必要であると実感する記念事業となった。

(研究員 周游)



国際学術シンポジウム記念写真

## 孫文研究会通信

### 2024年度（10月～3月）活動

・孫文「大アジア主義」講演100周年記念国際学術シンポジウム（12月1日 神戸駅前研修センター）

基調講演

嵯峨隆（静岡県立大学名誉教授）「孫文の対日観とアジア主義」

報告テーマ

孫江（中国・マカオ大学教授）「アジア主義という感情の媒体：孫文の「大アジア主義」演説を読む」

白永瑞（韓国・延世大学校名誉教授）「孫文のアジア主義の行方：その現在性を問う」

C.A.Smith（オーストラリア・メルボルン大学上級講師）「孫中山的「大亞洲主義」与弱小民族的回応」

趙軍（千葉商業大学名誉教授）「王道」と「人文東洋主

義」のたどり着く先：孫文と遠藤隆吉における近代東洋文明構築への模索」  
 宋念申（中国・清華大学教授）「言説亜洲の可能性」  
 潘光哲（台湾・中央研究院研究員）「作為政治概念的亜洲：近代中国地理理想的一个面向」

### 2025年度孫文研究会の役員名簿（50音順）

代表理事 宮内 肇 立命館大学  
 理事 蔣 海波 孫文記念館  
 理事 陳 來幸 ノートルダム清心女子大学  
 理事 宮原佳昭 南山大学  
 理事 森岡優紀 国際日本文化研究センター  
 理事 土肥 歩 学習院大学  
 理事 若松大祐 常葉大学

編集委員：理事が兼任

監査委員：久保純太郎 兵庫県立明石高等学校

会計委員：周游 孫文記念館

### 記念館ニュース 〈2024年10月～2025年3月〉

#### 2024年

10月16日 横浜山手中華学校一行（80名）来館  
 11月 9日 香港葉紀南記念中学校一行（36名）来館  
 11月16日 ノートルダム清心女子大学一行（27名）来館  
 11月19日 神戸市立舞子中学校一行（150名）来館



魚住館長の書

11月30日 国父記念館館長一行（4名）来館、魚住館長と書道交流  
 12月 5日 香港写真家一行（7名）来館  
 12月 6日 神戸学院大学一行（20名）来館

#### 2025年

1月17日 カワサキモーターズ（上海）一行（87名）来館  
 3月2日～3月30日 孫文没後100年特別絵葉書展



3月12日 孫文没後百年、移情閣一階の孫文胸像にお花  
 3月20日 枚方市日本中国友好協会一行（15名）来館



孫文胸像にお花

### 上海孫中山故居記念館で講演

2025年3月12日は、孫文逝去の日から100年にあたる。中国各地にある孫文ゆかりの施設ではさまざまな記念活動が行われた。上海では孫中山宋慶齡文物管理委員会主催の記念式典、中山学社主催の学術シンポジウムなどが行われた。12日午後、私は上海孫中山故居記念館（香山路7号）にて「孫中山と日本史料新探」と題する講演をさせていただいた。司会は上海市孫中山宋慶齡文物管理委員会業務処（研究室）主任宋時娟さん、同委員会所管の孫中山故居記念館、宋慶齡故居記念館の展示・研究部門の実務担当者約30名の出席があった。講演では近年当館に寄せられてきた孫文の書簡（複写画面を含む）、日本人に贈った揮毫などについて紹介、解説した。

質疑応答の際、偶然、講演を傍聴していた上海外国語大学に在籍の日本人留学生で、上海日本人留学生会々長もつとめている神作拳吳（かんさく けんご、23才）氏から、自宅には孫文の揮毫が大切に保存されていることが披露された。拳吳氏のスマートフォンの画面を拝見したところ、額装した「神作先生 博愛 孫文」との文字が映し出されている。

1913年2月から3月にかけて、孫文は日本各地を訪問・参観した。3月19日午後五時、孫文一行が福岡県大牟田の三井工業学校（福岡県立三池工業高等学校の前身）を参観し、実験室や談話室を視察したほか、植樹や揮毫などもした（『福岡日日新聞』1913.3.21）。揮毫のうち、「開物成務」の扁額は同校の宝物として今もホームページにアップされている。上記「博愛」はその時に校長神作濱吉個人に贈られたものであろう。神作濱吉（かんさく はまきち、号は亀山、千葉県の人、1866～1938年）は神作拳吳氏の高祖父にあたり、漢学に長けた教育者で、実業教育のほか、『論語』についての著書もある。

神作拳吳氏との出会いは偶然とはいえ、やはり孫文の「縁」が引き寄せてくれたものと感じざるをえない。今後もこのご縁を大切に、孫文と日本人の交流の歴史をより広く、そして次の世代に伝承していきたい。

（主任研究員 蔣海波）



## 移情閣友の会通信

\*活動報告（2024年10月～2025年3月）

・移情閣まつり2024…10月13日(日)孫文記念館ホールにて  
参加者：96名

コーラス・民族楽器演奏・太極拳表演のほか、公開文化講座では：①「ふるさと台湾と日本語ボランティア」加茂建二さん②「日台文化交流にふれて」大森綾希さん③「医武同源～健康武術と中医学」裴華さん



移情閣まつり コーラス

・『孫文と神戸を歩こう』フィールドワーク…11月30日(土)  
参加者：43名

講師：孫文記念館主任研究員蔣海波さん①「孫文先生大アジア主義講演の地（兵庫県庁1号館）」②旧神阪中華会館跡・神戸中華同文学校校史室見学③関帝廟-神戸・孫文ゆかりの地などを巡りました。



「孫文と神戸を歩こう」大アジア主義講演の地プレート前（台湾・国父紀念館一行）

・孫文先生「大アジア主義」講演100周年記念講演会…11月30日(土)ラッセホール 参加者：250名

開会行事：移情閣（孫文記念館）友の会コーラス・二胡同好会による出演

・友の会設立40周年記念祝賀会…12月15日(日)神仙閣  
参加者：62名

孫中山記念会井戸敏三顧問をはじめ、孫文曾孫 宮川

祥子様、孫文記念館・華僑関連諸団体代表など多数ご臨席を賜り、友の会新旧役員・会員と「友の会40年の歩み」を振り返り、ともに40周年を祝うことができました。



40周年祝賀会井戸顧問

・「2025年新春のつどい」…2月2日(日)神戸華僑歴史博物館・香港君悦飯店 参加者：40名

神戸華僑歴史博物館特別展見学。講師：蔣海波さんによる「孫文が来た頃の神戸～絵葉書が語る開港都市の原風景」を解説のあと、香港君悦飯店へ。特別講演会講師：安井三吉名誉館長によるご著書『孫文 華僑 神戸』のこぼれ話。



孫文2024 神戸華僑歴史博物館見学

・移情閣コンサート…10月19日、11月4日、12月21日、2025年1月12日、2月15日、3月22日 孫文記念館移情閣ホール 参加者のべ200名。

二胡同好会鳴尾牧子先生のプロデュースで中国楽器笛・琵琶・二胡のほか尺八と箏・津軽三味線・足踏みオルガンなど各回有名な演奏家たちをお招きして、素晴らしい演奏はもちろんのこと、演奏家の息遣いやトークまでが楽しめます。

〈今後の予定〉

・2025年度友の会総会・特別講演会…6月29日(日)孫文記念館ホール

特別講演会演題：「震災復興30年」

講師：井戸敏三さん ひょうご震災記念21世紀研究機構顧問

(移情閣友の会企画運営委員長 後藤みなみ)

## 編集後記

昨年、公益財団法人孫中山記念会主催の「孫文「大アジア主義」講演100周年記念事業」では、特別講演会と国際学術シンポジウムが開催された。今日における孫文の大アジア主義の価値を再認識することができました。多くの方にご来場をいただきありがとうございました。今年2025年は、1925年の孫文逝去から100周年に当たります。本館は一連の活動を開催する予定です。今年も当館へのご支援をよろしくお願いいたします。(周游)

第33号訂正 1頁当会歓送迎会写真 誤「2014.06.28」  
正「2024.06.28」

孫文記念館館報 『孫文』

第34号（2025年4月30日発行）

発行者 公益財団法人 孫中山記念会

〒655-0047 兵庫県神戸市垂水区東舞子町2051

Tel：078-783-7172 Fax：078-785-3440

e-mail：sunwen20@aiores.ocn.ne.jp

URL：https://www.sonbunkinenkan.com

(題字は孫文記念館所蔵の孫文自筆の書より。ただしオリジナルは縦書き)